

関連情報



サプライチェーン

サステナブル調達に向けた取り組み

大塚グループでは、バリューチェーン全体で法令遵守や安全・安心、社会に配慮した事業活動に取り組んでいます。新規サプライヤーとの取引開始に際しては、原材料の品質の確保と安定調達を確立するための調査・確認を行い、事前にデューデリジェンスを行ったうえで取引基本契約を締結しています。

また、公平・公正で透明性を保持した調達と良好な関係構築による相互の持続的発展を目指し、人権・労働・環境・腐敗防止などを考慮したグループ横断の「大塚グループ 調達方針」と「大塚グループサステナブル調達ガイドライン」を策定し、サステナブル調達の浸透に向け取り組みを推進しています。また2022年からは、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野に加え、自然災害や地政学リスクへの対応として「安定供給」もテーマに含めた取り組みをグループ全体で開始しました。

大塚グループ 調達方針

大塚グループは、“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”の企業理念と国際規範に基づき、革新的で安全・安心かつ適正品質な製品をお届けすることで、持続可能な社会の構築と世界の人々の健康への貢献を目指し、責任ある調達活動を行います。

1. サプライヤーとの関係

パートナーとして公正・適切な情報または意見交換を通じ、相互を理解することにより、良好な信頼関係を築き、相互の持続的発展を目指します。

2. サプライヤーの選定

品質・コスト・納期・環境への取り組みなどを総合的に評価し、公平・公正で透明性を持ったサプライヤーの選定を行います。

3. 社会への配慮

持続可能な社会の実現に向け、人権・労働・環境・腐敗防止に配慮した調達活動に努めます。

4. コンプライアンスの遵守

関連するすべての法令・ルールを遵守し、高い倫理観をもって社会通念に基づき行動します。

大塚グループサステナブル調達ガイドライン

(環境部分抜粋)

大塚グループの「環境方針」に準拠し、以下の項目を要望します。

1. 国際条約及び事業活動を行う国や地域における環境関連法の遵守
2. 化学物質の管理、廃棄物の削減や適正処分など地域社会や住民への環境・健康・安全衛生を考慮した取り組み
3. 温室効果ガスの排出量削減、気候変動への対応、環境負荷の低減など、地球環境を考慮した取り組み
4. 資源（エネルギー、水、原材料など）の消費抑制と効率使用、資源の循環利用の推進
5. 生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性に考慮し、生物多様性の包括的な保全活動の推進、遺伝資源の利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分

サステナブル調達推進に向けた取り組み

大塚グループサステナブル調達強化プロジェクトではUNGCの4分野に配慮した調達活動のために、調達担当者トレーニング、直接材の一次調達先^{*1}へのサプライヤー説明会、サステナブル調達SAQの実施、ならびに活動状況確認を行いました。

*1 大塚製薬、大塚製薬工場、大塚薬品、大塚化学、大塚食品、大塚テクノ、イーエヌ大塚製薬、大塚包装工業のグループ8社のサプライヤー企業

項目	実績	2022年の取り組み
調達担当者トレーニング	新規+既存担当者 計58名	グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) のCSR調達セルフ・アセスメント質問表をもとにUNGC4分野の課題について学習。
サステナブル調達説明会	国内サプライヤー 583社 同意の取得 583社	「大塚グループ調達方針」「大塚グループサステナブル調達ガイドライン」「大塚グループ2050年環境ビジョン」の説明と「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」についての研修をオンデマンドのeラーニングで実施。上記内容を理解し、サステナブル調達の協働推進に同意いただいたサプライヤー企業から同意を取得。
サステナブル調達SAQ	国内外サプライヤー 597社 (国内577社、海外20社)	GCNJのCSR調達セルフ・アセスメント質問表に加えて大塚グループの事業活動に基づいて独自に作成した「人権SAQ」と「環境SAQ」を実施。さらに調査結果のレビューとリスク特定も実施。
活動確認	電話インタビュー 112社 WEBヒアリング 13社	サプライヤーの実際の活動状況を把握するために112社に電話インタビューを行った。また、13社にはより深い対話のためにWEBヒアリングを実施。活動確認を行い、より深くサプライヤーの状況を認識できた。